

風飾

柳多留

十三編

1147
13



門 へ 9 特
辨 1147
卷 13



松	因	誦
三	在	風
篇	揚	家

川柳評後書

奉懸

市谷田町初瀬
飯田町錦
麻布永坂柳水
小石川霍龜
山下梅木
糞野初音
千住登
新堀端和哥名
三川丁直破

一物と云ひしつゝかのし母が
ちがひし見してスエヤ
にわ人の大層と云る
事いせしつゝもさる書
後ぞんかみさぐさ
友よとの書具天井
琴お一のつゝと入こ
あんなの邦おあ
いにしつゝいりお飯

とんりつゝおんも
おおれ店らんで
つゝ男とせれ売
そのまゝつゝ
笑えのつゝら
りんゆいで
つゝおぬ敷入
つゝつゝりつゝ
つゝんおつゝら

清くしつみふしとて入るる
やうにひびくをいふに
節のちか敷醫 十一 十二 十三
今このちか敷のちか敷
は、
天のちか敷のちか敷
後、
ちか敷のちか敷のちか敷
一、
ちか敷のちか敷のちか敷

たてあやのちか敷のちか敷
せらあやのちか敷のちか敷
君のちか敷のちか敷のちか敷
敷のちか敷のちか敷のちか敷
ちか敷のちか敷のちか敷のちか敷
ちか敷のちか敷のちか敷のちか敷
ちか敷のちか敷のちか敷のちか敷
ちか敷のちか敷のちか敷のちか敷
ちか敷のちか敷のちか敷のちか敷
ちか敷のちか敷のちか敷のちか敷

うらやまのついでに... 定家... 白... ね... 小田... ち...

おの... 治... 天... 男... 入... ち...

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and continuous across both pages of the open book. The characters are highly stylized and difficult to decipher without specialized knowledge of the language and script. The text appears to be a single, flowing entry or a series of related notes. The right page shows the beginning of the text, and the left page continues it. The overall appearance is that of a well-preserved but aged historical record.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 15 lines of text on both pages. The script is dense and cursive, typical of historical Arabic manuscripts. The text is written in black ink on aged, yellowish paper. The right page contains the first line, and the left page contains the remaining lines. The text appears to be a continuous passage, possibly a letter or a section of a larger work.

小袖でいふの茶碗を女の子
 大高の茶碗のくわい
 中入の茶碗の茶碗の茶碗の
 小高の茶碗の茶碗の茶碗の
 大高の茶碗の茶碗の茶碗の
 中入の茶碗の茶碗の茶碗の
 小高の茶碗の茶碗の茶碗の
 大高の茶碗の茶碗の茶碗の
 中入の茶碗の茶碗の茶碗の
 小高の茶碗の茶碗の茶碗の

中入の茶碗の茶碗の茶碗の
 大高の茶碗の茶碗の茶碗の
 小高の茶碗の茶碗の茶碗の
 中入の茶碗の茶碗の茶碗の
 大高の茶碗の茶碗の茶碗の
 小高の茶碗の茶碗の茶碗の
 中入の茶碗の茶碗の茶碗の
 大高の茶碗の茶碗の茶碗の
 小高の茶碗の茶碗の茶碗の
 中入の茶碗の茶碗の茶碗の
 大高の茶碗の茶碗の茶碗の
 小高の茶碗の茶碗の茶碗の

母の心はなつかしくもなつかしくも
教の心はなつかしくもなつかしくも
子に心はなつかしくもなつかしくも
おと心はなつかしくもなつかしくも
ひまの心はなつかしくもなつかしくも
和心はなつかしくもなつかしくも
静心はなつかしくもなつかしくも
すあな心はなつかしくもなつかしくも
春の心の心はなつかしくもなつかしくも

田舎人の心はなつかしくもなつかしくも
史の心はなつかしくもなつかしくも
人々の心はなつかしくもなつかしくも
母の心はなつかしくもなつかしくも
下母の心はなつかしくもなつかしくも
妙房の心はなつかしくもなつかしくも
まふの心はなつかしくもなつかしくも
心はなつかしくもなつかしくも
心の心はなつかしくもなつかしくも

おらなや、仕合のこゝも、
とわと、あつらひ、
末せと、あつらひ、
下沙敏申、古き、
ちぢく、
やくと、
ほく、

細か、
し、
十、
之、
あ、
知、
地、

換店小町一丁
子方一丁
舟石一丁
流石一丁
曲房小屋一丁
時高花娘一丁
女一丁
二丁
三丁
四丁
五丁
六丁
七丁
八丁
九丁
十丁

のことゝからさうから説文と
 してはかゝるにさうかゝるに
 百人で九十九人の及びの
 強ハたつたゆゑとて之は丁
 計はたつたにぞのからかゝるに
 出典の故もさうかゝるに
 櫻津のさうかゝるにさうかゝるに
 してはかゝるにさうかゝるに
 せうかゝるにさうかゝるに

流るのさうかゝるに
 さうかゝるにさうかゝるに
 白染とさうかゝるに
 蒼り一六のさうかゝるに
 さうかゝるにさうかゝるに
 さうかゝるにさうかゝるに
 さうかゝるにさうかゝるに
 さうかゝるにさうかゝるに
 さうかゝるにさうかゝるに

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in Arabic script, likely a manuscript or letter. The text is written in a cursive style and spans across two pages. The right page contains approximately 12 lines of text, and the left page contains approximately 12 lines of text. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.

見師〜細あも〜
大二十日〜
角き出ぞ〜
大さよとあ〜
あ〜とと〜
〜と〜は〜
お〜果〜
〜〜
〜〜

〜
〜
〜
父が〜
〜
〜
〜
お〜と〜
新居の〜

成春角力會之部

松浦がへりもわし松成寺

櫻木連柳止

鈴ヶ塚としてある所のところ

登連

先の方よりしてある所

柳水、雨譚

西二十名ありとある書

四谷、五雷

目撃した松ノ世評と云はれ

伊呂波、冬印

鳥の茶のりにてあり

四谷、五連

名目やうくある見せり

雄松、千里

松との礼は余ありと云

櫻木、柳止

一里塚の

二十人

櫻木、冬始

ふりかへるの

羽衣

にちつと申す松の

高根、志柳

山下のうす

四谷、五雷

かたきとある

伊呂波、千里

下み日天

櫻木、冬始

ふんちとある

全 其林

大波との

伊呂波、千里

ふんちとある

全 冬印

初瀬、土扇
 柳水、雨譚
 櫻木、冬姑
 四谷、雨
 羽衣
 伊呂波、重
 真砂、仙島
 柳水、雨譚

初瀬、土扇
 羽衣
 登連
 四谷、土扇
 姫松、葛故
 梅木、梅風
 登三
 櫻木、冬姑
 柳水、雨譚

下... 柳木、冬始
 全、大柳
 登、口示
 四谷、口示
 柳水、雨編
 柳水、王龍
 伊呂波、流路
 全、

安永七年戊二月吉辰

催主 星運堂

浦助 薩秀堂

○俳諧風書品目錄 江都土野 山王之嫌 花屋舊淡郎

倭風折柳摺造十冊 川折点句詞代秀 聖孝惠新信年讓作管部也

同川傍柳 古川折点 同やうの書 二冊

同折句輕筆之遺稿篇 二編 柳折点句詞代秀 柳折点句詞代秀

同 此は應永七年... 同折点句詞代秀

同 此は應永七年... 同折点句詞代秀

依諧 此は應永七年... 同折点句詞代秀

